

## 添 付 資 料

- 医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議設置要項・・・・・・・・・・ 4 4
- 医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議名簿・・・・・・・・・・ 4 5
- 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に関するワーキング・グループ名簿・・・・・・・・・・ 4 6
- 教育者・研究者養成方策の充実に関するワーキング・グループ名簿・・・・・・・・ 4 7
- 診療参加型臨床実習の在り方に関するワーキング・グループ名簿・・・・・・・・ 4 8
- 最終報告までの審議経過・・・・・・・・・・ 4 9
- 『「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に関するワーキング・グループ』の審議経過・・・・・・・・・・ 5 1
- 教育者・研究者養成方策の充実に関するワーキング・グループの審議経過・・・・ 5 2
- 診療参加型臨床実習の在り方に関するワーキング・グループの審議経過・・・・ 5 3
- 最終報告概要・・・・・・・・・・ 5 4
- 最終報告のポイント・・・・・・・・・・ 5 8

# 医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議について

平成17年5月6日  
高等教育局長決定

## 1. 目的

大学の医学教育の改善、充実に関する専門的事項について調査研究を行い、必要に応じ報告を取りまとめる。

## 2. 調査研究事項

- (1) 学部及び大学院における医学教育の改善・充実について
- (2) 地域医療を担う医師養成の在り方について
- (3) 教育研究病院としての大学病院の在り方について
- (4) 教育研究・診療組織の在り方について
- (5) その他

## 3. 実施方法

- (1) 別紙の協力者により調査研究を行う。
- (2) 必要に応じ、小委員会を設置して検討を行うことができるものとする。
- (3) 必要に応じ、関係者からの意見等を聴くことができるものとする。

## 4. 実施期間

平成17年5月6日から平成19年3月31日までとする。

## 5. その他

本会議に関する庶務は、高等教育局医学教育課において処理する。

## 医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議名簿

(協力者) 22名

あらかわ よしひろ  
荒川 義弘  
おおはし としお  
大橋 俊夫

東京大学医学部附属病院臨床試験部副部長

信州大学医学部長  
全国医学部長病院長会議会長

おがわ ひでおき  
小川 秀興

学校法人順天堂理事長  
順天堂大学長

かわさき あきのり  
川崎 明德

学校法人川崎学園理事長  
社団法人日本私立医科大学協会会長

きたむら きよし  
北村 聖

東京大学医学教育国際協力研究センター教授

さとう しんや  
佐藤 慎哉

山形大学医学部脳神経外科講師

しんどう さちえ  
新道 幸恵

青森県立保健大学学長

すいた さちよ  
水田 祥代

九州大学病院長  
国立大学附属病院長会議地域医療問題小委員会委員長

座長

たかく ふみまろ  
高久 史麿

自治医科大学学長

たなか ゆうじろう  
田中 雄二郎

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科  
臨床医学教育開発学分野教授

つじもと よしこ  
辻本 好子

特定非営利法人ささえあい医療人権センターCOML理事長

てらお としひこ  
寺尾 俊彦

浜松医科大学長

ながわ ひろかず  
名川 弘一

東京大学腫瘍外科教授

いぬま まさお  
飯沼 雅朗

社団法人日本医師会常任理事

ほぶ そのこ  
垣生 園子

東海大学医学部免疫学教室教授

ふくい つぐや  
福井 次矢

聖路加国際病院院長

副座長

ふくだ やすいちろう  
福田 康一郎

千葉大学大学院医学研究院教授

まつお せいいち  
松尾 清一

名古屋大学大学院医学研究科病態内科学講座免疫応答内科学教授  
名古屋大学医学部附属病院副病院長

みなみ まさご  
南 砂

読売新聞東京本社編集局解説部次長

よしあら なちやす  
吉新 通康

東京北社会保険病院管理者  
社団法人地域医療振興協会理事長

よしだ おさむ  
吉田 修

奈良県立医科大学学長

よしむら ひろくに  
吉村 博邦

北里大学医学教授

全国医学部長病院長会議顧問

(オブザーバー) 2名

わた ひろお  
和田 裕生

総務省自治財政局公営企業課地域企業経営企画室長

くりやま まさひで  
栗山 雅秀

厚生労働省医政局医事課長

## 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に関するワーキング・グループ名簿

主査	福田 康一郎	千葉大学大学院医学研究院教授
副主査	北村 聖	東京大学医学教育国際協力研究センター教授
	相川 直樹	慶應義塾大学病院長
	相澤 好治	北里大学医学部教授
	梶井 英治	自治医科大学地域医療学センター教授
	齋藤 宣彦	国際医療福祉大学附属三田病院副院長
	奈良 信雄	東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター教授
	仁田 善雄	東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター助教授
	福島 統	東京慈恵会医科大学教育センター副センター長教授
	福本 陽平	山口大学医学部附属病院総合診療部長
	松村 理司	医療法人社団洛和会洛和会音羽病院院長
オブザーバー	渡 三佳	厚生労働省医政局医事課試験免許室専門官

## 教育者・研究者養成方策の充実に関するワーキング・グループ名簿

主査	大橋 俊夫	信州大学医学部長
副主査	垣生 園子	東海大学医学部教授
	飯島 俊彦	秋田大学医学部長
	河上 裕	慶應義塾大学先端医科学研究所所長
	児玉 龍彦	東京大学先端科学技術研究センター教授
	祖父江 元	名古屋大学大学院医学系研究科教授
	高野 健人	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
	鍋島 陽一	京都大学大学院医学研究科副研究科長
	前原 喜彦	九州大学大学院医学研究院教授
	宮園 浩平	東京大学大学院医学系研究科教授
	森下 竜一	大阪大学大学院医学系研究科教授
アドバイザー	宮崎 雅則	厚生労働省医政局医事課医師臨床研修推進室長
アドバイザー	池田 千絵子	研究振興局研究振興戦略官付先端医科学研究企画官

## 診療参加型臨床実習の在り方に関するワーキング・グループ名簿

主査	名川 弘一	東京大学腫瘍外科教授
副主査	田中 雄二郎	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 臨床医学教育開発学分野教授
	大久保 善朗	日本医科大学精神医学教室主任教授
	大滝 純司	東京医科大学病院総合診療科教授
	岡井 崇	昭和大学病院産婦人科教授
	河野 陽一	千葉大学大学院医学研究院小児病態学教授
	後藤 英司	横浜市立大学医学研究院教授・臨床研修センター長
	新保 卓郎	国立国際医療センター研究所医療生態学研究部長
	高瀬 浩造	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療政策学教授
	名郷 直樹	社団法人地域医療振興協会 地域医療研修センター長
	丹生 健一	神戸大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学教授 ・卒後臨床研修センター長
	平出 敦	京都大学大学院医学研究科附属医学教育推進センター教授
	吉田 素文	九州大学大学院医学研究院医学教育学教授
オブザーバー	小澤 時男	厚生労働省医政局医事課課長補佐
オブザーバー	井内 努	厚生労働省医政局医事課課長補佐

## 最終報告までの審議経過

第 1回 平成17年 5月24日

主な議題：問題提起

第 2回 平成17年 7月12日

主な議題：地域医療を担う医師養成の在り方、関係者からのヒアリング

第 3回 平成17年 9月 6日

主な議題：地域医療を担う医師養成の在り方、卒前教育

第 4回 平成17年10月 4日

主な議題：地域医療を担う医師養成の在り方、卒後教育

第 5回 平成17年11月 8日

主な議題：地域医療を担う医師養成の在り方、教育者・研究者養成及び大学  
病院

第 6回 平成18年 2月 2日

主な議題：第一次報告骨子（案）審議

第 7回 平成18年 3月20日

主な議題：第一次報告骨子（案）審議

第 8回 平成18年 7月28日

主な議題：医師の需給に関する検討会報告書、各ワーキングにおける検討状  
況

第 9回 平成18年 9月27日

主な議題：第一次報告（案）審議

第10回 平成18年11月 7日

主な議題：医学部の期間を付した定員の在り方について、教育研究病院とし  
ての大学病院の在り方等について

第11回 平成18年11月28日

主な議題：第二次報告（案）審議、臨床研究に関する関係者からのヒアリン  
グ、第一次報告決定

第12回 平成18年12月14日

主な議題：第二次報告（案）審議、臨床研修に関する関係者からのヒアリン  
グ、第二次報告決定

第13回 平成19年2月1日

主な議題：各ワーキングの報告、最終報告に向けた審議

第14回 平成19年3月1日

主な議題：最終報告に向けた審議、最終報告（案）審議

第15回 平成19年3月16日

主な議題：最終報告（案）審議

※このほか、『「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に関するワーキング・グループ』を6回、『教育者・研究者養成方策の充実に係るワーキング・グループ』を7回、『診療参加型臨床実習の在り方に関するワーキング・グループ』を7回開催。



## 『「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に関するワーキング・グループ』の審議経過

### 第 1回 平成18年 1月11日

主な議題：開催趣旨、当面のスケジュール

### 第 2回 平成18年 2月23日

主な議題：検討すべき内容

### 第 3回 平成18年 4月20日

主な議題：モデル・コア・カリキュラムの改訂（地域保健・医療、腫瘍、医療安全等）

### 第 4回 平成18年 6月26日

主な議題：モデル・コア・カリキュラムの改訂（地域保健・医療、腫瘍、医療安全等）、  
がん対策基本法、モデル・コア・カリキュラムにおける技術的な修正

### 第 5回 平成18年 9月22日

主な議題：モデル・コア・カリキュラムの改訂（地域保健・医療、腫瘍、医療安全等）、  
モデル・コア・カリキュラムにおける技術的な修正、モデル・コア・カリキュラムの改訂（医師として求められる基本的な資質、研究の視点）

### 第 6回 平成19年 1月 9日

主な議題：モデル・コア・カリキュラムの改訂（医師として求められる基本的な資質、  
研究の視点、地域医療臨床実習）、モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的な体制の構築

## 教育者・研究者養成方策の充実に関するワーキング・グループの審議経過

### 第 1回 平成18年 1月26日

主な議題：開催趣旨、当面のスケジュール

### 第 2回 平成18年 3月16日

主な議題：フィジシャン・サイエンティストの育成について

### 第 3回 平成18年 4月27日

主な議題：フィジシャン・サイエンティストの育成について

### 第 4回 平成18年 7月 4日

主な議題：教育者・研究者の養成方策の充実について

### 第 5回 平成18年 8月18日

主な議題：教育者・研究者の養成方策の充実について、英国におけるAcademic Medicine  
について、モデル・コア・カリキュラムの改訂（研究の視点）

### 第 6回 平成18年11月13日

主な議題：教育者・研究者の養成方策の充実について、モデル・コア・カリキュラムの  
改訂（研究の視点）

### 第 7回 平成19年 1月19日

主な議題：教育者・研究者の養成方策の充実について

## 診療参加型臨床実習の在り方に関するワーキング・グループの審議経過

### 第 1回 平成18年 3月17日

主な議題：開催趣旨、当面のスケジュール

### 第 2回 平成18年 4月18日

主な議題：日本におけるクリニカルクラクシップの現状について、英国・米国との医  
行為の比較について

### 第 3回 平成18年 6月13日

主な議題：地域医療臨床実習に関する関係者からのヒアリング

### 第 4回 平成18年 7月18日

主な議題：地域医療臨床実習について

### 第 5回 平成18年10月17日

主な議題：第一次報告を踏まえた検討事項について、モデル・コア・カリキュラムの改訂（地域医療臨床実習）

### 第 6回 平成18年12月 7日

主な議題：診療参加型臨床実習の在り方について、モデル・コア・カリキュラムの改訂（地域医療臨床実習）、学生による電子カルテの扱いなどについて

### 第 7回 平成19年 1月12日

主な議題：診療参加型臨床実習の在り方について

# 医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議

## 最終報告概要

### 1 入学者選抜の改善

- 地域の社会福祉施設等におけるボランティア活動の感想文の提出等、選抜方法の多様化、評価尺度の多元化。
- 高等学校における出前講座、高校生の大学の講義等の受講等、高等学校教育と医学教育との接続の改善。

### 2 教育者・研究者の養成等の医学教育の改善

#### ① 学部教育の改善について

- 「医師として求められる基本的な資質」や「学部教育における研究の視点」についてのモデル・コア・カリキュラムの改訂。
- 学部生の研究室配属、選択制カリキュラムの充実等による研究マインドの育成。
- ジョイントディグリー、主専攻・副専攻制、学士編入学等、多様な教育機会の提供。

#### ② 大学院教育の改善について

- 大学院の目的の明確化（研究者養成と臨床医等養成）と、大学病院での研究目的の診療従事のカリキュラムへの位置づけ、複数教員の指導体制の確立等、教育内容の実質化。
- 公衆衛生大学院の整備、修士課程の活用、秋季入学の実施、米国のMD/Ph. Dコースを参考にした早期進学特例の活用等。
- 英国のアカデミックF2プログラムを参考とした研究マインドを育む研修等、新医師臨床研修の研修プログラムの工夫・改善。
- 大学院と大学病院の連携等による、専門医養成における大学院の取組の充実。
- 博士号取得を助教採用時に必要条件とする等、博士号取得が教育者・研究者のスタートライン等として実感される取組。
- 臨床医、臨床研究者、基礎医学研究者それぞれのキャリアパスの明確化とキャリア形成への支援。

### ③ 教育者の教育能力開発の推進等の関連する取組

- 学内の実習担当教員と学外の臨床教授等、基礎医学と臨床医学の教員が、共通のFDに取り組むなど、FD（ファカルティ・ディベロップメント）の充実。
- 同僚教員による評価・助言、教育者に求められる資質等を明確にした上での能力評価の検討・導入、顕彰や給与上の処遇等教育業績の優れた教員へのインセンティブ等、教員の評価の充実。
- 複数の専攻分野を有する教育研究組織の整備、専門領域横断型の研究プロジェクト制の活用、産業界と連携した寄付講座の設置、医学以外の博士号取得者の臨床医学講座の助教への登用等、教育研究組織の整備。
- 助教制度を活用した若手研究者等の育成、特別研究員制度の対象年齢の引き上げの検討等の医学分野の特性に配慮した支援、研究休職等による若手教員の留学支援等、若手の研究者・教員への支援。

### 3 モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的な体制の構築

- 専門的な調査研究を行い改訂の原案を作成する組織（専門研究組織）と関係者が改訂を決定する組織（連絡調整組織）を文部科学省を中心に構築。  
その上で、国家試験出題基準の改正等にすみやかに対応して改訂を行うとともに、教育効果の検証等全面改訂に必要な準備・検討を実施。

### 4 診療参加型臨床実習の在り方

- 診療科単位を超えた教育指導体制の整備、統括責任者等の責任体制の確立、臨床実習委員会等の企画調整組織の設置等、全学的な実施体制の構築。
- 共用試験実施評価機構等が学生の診療技能の修得に関する証明証を発行するなど、学生が診療に携わることについて患者の理解と同意を得るための取組の充実。
- 臨床教授の活用、実習プログラムの責任者の設置、学生の評価も含めた実習中の連携体制の構築等、学外の医療機関での実習の推進。
- 学生に医療チームの構成員としての能力等を習得させる機会を充実させるための、コメディカルも含めた医療チームの連携協力体制の構築。
- 実習終了時の到達目標と評価基準の明確化、advanced OSCEの実施等、実習開始前のみならず、実習終了時や卒業時の学生に対する評価や指導の充実。

- モデル・コア・カリキュラムの改訂による、「地域医療臨床実習」の学習内容の新設。
- 診療技能の確保の徹底等の侵襲的医行為等に関するプロセスの徹底、個人情報に関する学習や指導の徹底。

## 5 大学病院における新医師臨床研修の充実

- 総合診療部等を活用した総合診療方式の導入、学外の多様な医療機関との緊密な連携体制の構築、複数の大学が共同してプログラムを提供する方式等、研修体制・研修プログラムの工夫・改善。
- 各大学の教育理念等に応じた研修等、基本研修科目等以外の研修期間の取組の工夫・改善。
- 指導医等に対するサポート体制の充実、教育機能のセンター的な役割を担う卒後臨床研修センター等の組織の整備。
- 卒前の実習内容の研修指導等への反映、臨床研修医が学生を指導する体制の構築等、卒前教育・卒後教育を通じた取組の充実。

## 6 専門医養成の在り方

- 大学病院や地域の医療機関をローテートしながらキャリア形成を図る医師養成システムの構築。  
大学病院は、専門医養成の場の提供や養成プログラムの充実を図った上で、医師養成システムの構築に中核的な役割を果たすことが求められる。
- 大学病院における総合診療医の養成システムの構築等、新医師臨床研修とも連動した研修プログラムの改善・充実。

## 7 臨床研究の推進

- 臨床研究や研究者の総合的な支援を行う ARO (Academic Clinical Research Organization) の整備等の全国的な拠点整備等、臨床研究者の教育・研修・実施支援の一貫した体制の構築。
- 臨床情報の基盤整備、大学間のネットワークの構築等、臨床研究基盤の体制整備。
- 治験依頼者への対応等を一元化したワンストップオフィスの大学病院への設置。

- 臨床研究に必要とされる基本的知識の修得等の学部教育の充実。
- 臨床研究経験を教員募集時の履歴事項とするなど、臨床研究者の動機づけの取組。

#### 8 教育研究病院としての大学病院の役割を適切に果たすための組織体制の在り方

- 専門的業務を行う事務職員の計画的採用、病院運営実態に応じた弾力的な事務組織体制の整備等、大学病院の管理運営における事務系職員の能力の開発と役割の充実。
- 大学病院として教育・研究の目的を明確にした上での疾病別・臓器別等の診療組織の構築等。
- 教育・研究・診療の各機能に応じた医師の役割分担の明確化、看護師等のコメディカルとの連携協力体制の構築。
- 医師不足が指摘されている診療科等の人材養成のための体制の整備、救命救急体制の整備。

#### 9 女性医師の増加に伴う環境整備

- 短時間勤務の導入、院内保育所の整備と利便性の向上等、女性医師が働きやすい環境整備。
- 復職前の職場復帰訓練、段階的な復職のための職場サポートシステムの構築等、育児休業からの復職にあたっての環境整備。
- 再研修センター等の組織を整備し、復帰相談、教育・研修、就業紹介、復帰予定の医療機関との連携等の復帰に必要な支援を総合的に行うなど、子育て等により退職等した女性医師の医療現場への復帰支援の充実。
- 「次世代育成支援対策特別推進法」に基づく特定事業主行動計画の策定・充実。

# 「医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」最終報告のポイント

## 1 入学者選抜の改善

- 選抜方法の多様化、評価尺度の多元化（社会福祉施設等でのボランティア活動の感想文の提出を求めるなど）
- 高校教育と医学教育との接続の改善（高校への出前講座、高校生による大学の講義等の受講など）

## 2 教育者・研究者の養成等の医学教育の改善

### ①学部段階

- 「医師として求められる基本的な資質」や「学部教育における研究の視点」についてのモデル・コア・カリキュラムの改訂
- 研究マインドの育成（学部生の研究室配属、選択制カリキュラムの充実など）
- 多様な教育機会の提供（ジョイントディグリー、主専攻・副専攻制、学士編入学）

### ②大学院段階

- 教育内容の実質化（養成目的の明確化[研究者・臨床医等]、複数教員による指導など）
- 臨床医・臨床研究者・基礎医学研究者等のキャリアパス明確化とキャリア形成支援
- 博士号取得が教育者・研究者のスタートライン等として実感される取組（取得を助教採用時の条件とすること等）
- 公衆衛生大学院の整備、秋季入学の実施、米国のMD/Ph.Dコースを参考にした早期進学特例の活用など

### ③教育者の教育能力開発など

- FDの充実
- 教員評価の充実（能力評価の検討・導入、教育業績の優れた教員へのインセンティブ付与など）
- 若手研究者・教員への支援（助教制度を活用した若手の育成、特別研究員制度の対象年齢の引き上げの検討など）

## 3 モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的な体制の構築

医・歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の恒常的な体制（文部科学省を中心）で、

- ①当面の改訂（国家試験出題基準の改正、法制度等の変更に対応した改訂）
- ②定期的な全面改訂に必要な準備や検討（学生への教育効果の検証など）を実施

### 連絡調整組織

- 構成：○全国医学部長病院長会議  
○歯科大学学長・歯学部長会議  
○共用試験実施評価機構  
○OMDセンター 等

決定

原案作成

### 調査研究組織（実務は共用試験実施評価機構）

- 構成：  
○共用試験の企画立案等の実務担当者  
○医・歯学教育カリキュラムや国家試験等に精通した者  
○第一線の医療従事者 等

## 4 診療参加型臨床実習の在り方

- 「地域医療臨床実習」の学習内容の新設（モデル・コア・カリキュラム改訂）
- 患者の理解と同意を得るための取組（学生の診療技能の修得に関する証明書の発行など）
- 侵襲的医行為等に関するプロセス（診療技能の確保、患者への説明と同意等）の徹底
- 個人情報に関する学習や指導の徹底
- 全学的な実施体制（診療科横断的な体制、統括責任者・実習委員会の設置など）
- 学外の医療機関での実習の推進（臨床教授の活用など）
- 実習終了時、卒業時の評価・指導の充実（到達目標等の明確化、advanced OSCEの実施など）

## 5 大学病院における新医師臨床研修の充実

- 研修体制やプログラムの工夫・改善（総合診療方式の導入、学外の医療機関との連携、複数大学の共同プログラムなど）
- 指導医等へのサポート体制、卒後臨床研修センター等の整備など
- 卒前・卒後教育を通じた取組（卒前の実習内容の研修指導への反映、研修医による学生指導など）
- 基本研修科目等以外の研修期間の取組の工夫改善（研究マインドを育む研修など）

## 6 専門医養成の在り方

- ローテート式（大学病院と地域の医療機関間）の医師養成システムの構築
- 新医師臨床研修と連動した研修プログラム（総合診療医の養成など）

## 7 臨床研究の推進

- 全国的な拠点の整備（ARO[Academic Clinical Research Organization]の整備など）
- 臨床研究の基盤整備（臨床情報の基盤整備、大学間ネットワークの構築など）
- ワンストップオフィスの設置（治験依頼者への対応の一元化など）
- 学部教育の充実（臨床研究の基本的知識の修得など）
- 臨床研究者へのインセンティブ（研究経験を教育募集等の履歴事項とするなど）

## 8 教育研究病院としての大学病院の役割を適切に果たすための組織体制の在り方

- 大学病院としての教育・研究の目的を明確にした上での疾病別・臓器別の診療組織の構築
- 医師の役割分担とコメディカルとの連携体制
- 医師不足分野の人材養成、救命救急体制の整備
- 事務系職員の能力開発と役割充実

## 9 女性医師の増加に伴う環境整備

- 女性医師が働きやすい環境整備（短時間勤務、院内保育所の整備など）
- 育児休業からの円滑な復帰（職場復帰訓練、職場サポートシステムの構築など）
- 退職した女性医師の復帰支援（復帰相談、研修などを行う再研修センターの整備など）